

宇宙観測グループ

人の移動など

2014年度は4月1日に教授久野成夫（前国立天文台野辺山宇宙電波観測所長）が着任し、研究室の全人員は以下のとおりでした。

■教授：中井 直正、久野 成夫

M2 = 2名、M1 = 7名
（うち教育研究科1名）

■卒 研 生：3名

年度途中に長崎が高エネルギー加速器研究機構の研究員に転出しました。また年度末の3月31日をもって、2006年4月1日以来の長きに渡って国土地理院32mアンテナの受信機や南極望遠鏡の開発など研究室の研究と教育に多大な貢献をされた瀬田益道が関西学院大学理工学部物理学科の教授に栄転しました。同時に研究室で初めて外国人留学生として学位を取得した Dragan SALAKも同大学の助教（任期付）に転出し、金子紘之は国立天文台野辺山宇宙電波観測所に研究員として移動しました。また永井誠は助教としての任期がきましたが、2015年4月から引き続き研究員として国土地理院32m鏡の運用などにあたっています。

M2の2名は南極10mテラヘルツ望遠鏡関係の開発で修士の学位を得て大学院を修了し、企業に就職しました。物理学類4年（卒研生）の2名も卒業研究が合格し、1名はそのまま本研究室の大学院生となり、1名は国立天文台の総合研究大学院大学の大学院に進学しました。

■講 師：瀬田 益道

■助 教：永井 誠

■研 究 員：金子 紘之、長崎 岳人、
Dragan SALAK

■大学院生：D2 = 1名、D1 = 1名、

2015年4月1日には新田冬夢が（任期付）助教に着任しました。また6名（うち1名は中国からの留学生）の新大学院生（M1）と4名の卒研究生を新たに迎えました。

研究の進捗

国土地理院の32mアンテナはこれまでのいろいろな不具合の修理が終わり、久しぶりに観測に専念できています。銀河面のアンモニア観測とオリオン分子雲の分子雲コアの観測が中心です。

南極10mテラヘルツ望遠鏡に関しては、新ドームふじ基地の建設が当面、困難であることが明確となったため、既存の越冬可能基地であるフランス・イタリアのドームC（コンコルディア基地）に建設候補地を変更し、フランスと協議を開始しました。そのため、概算要求は1年遅らせ、平成29年度概算要求を目指すことになりました。また次期大型計画として南極30m級テラヘルツ望遠鏡についても科学目標の検討や宇宙電波懇談会のシンポジウムでの発表など引き続き計画の推進を行っています。

（中井 直正）

